

第1部 プロジェクト研究

個に応じた学習指導の現状と課題

少人数学習集団の授業に関する実態調査結果と考察

要約

本年度のプロジェクト研究では、県内の少人数授業加配配置校(小・中学校)へのアンケート調査を基に、少人数学習集団の授業にかかわる現状をまとめた。

少人数学習集団のコース編成の仕方は、小学校では、各コースが等質になるような編成が多く、中学校では、習熟度別のコース編成が多くなっている。また、少人数学習集団の授業の成果として、指導が行き届き、学力が向上していると、とらえている学校が多い。具体的には、国語では漢字の読み書きの正確さや文章表現力、算数・数学では計算力や数学的思考力の向上などに学力の定着が認められる。

しかし、実施上の悩みや課題が多いことも明らかになってきた。具体的には、打ち合わせ時間の確保、コース編成の方法、指導方法の改善、評価規準の作成などの課題を抱えている学校が多い。

平成14年度には、少人数授業加配配置校が拡大されていく。今後、学力向上に向けた少人数学習集団の授業の成果を上げるために、保護者の理解を得ながら、効果的なコース編成や指導方法を検討していくことが各学校に求められている。

キーワード 少人数学習 個に応じた学習指導 習熟度別 コース別

1 はじめに

少人数学習集団編成事業の実施初年度に当たり、県内小中学校では、少人数学習集団で授業を行うための集団の作り方や指導方法に対する関心が高まっている。当センター研修講座の受講者からも、少人数学習集団への取り組みに関する情報を求める声が多い。

そこで、当センターでは、県内小中学校における少人数学習集団の授業の実施状況や各校が抱える問題点等の実態調査を通して、現状と課題を明確にしようと考えた。

児童生徒の学力向上に向け、充実した取り組みができるよう各学校へ情報提供するとともに、当センターの今後の講座構築などに活かしていきたい。

2 調査概要

(1) 対象(長野県内)

平成13年度「少人数学習集団編成事業」の少

人数事業加配配置校を調査対象校とした。

小学校 98校(回収94校,回収率96%)

中学校 15校(回収15校,回収率100%)

(2) 実施時期 平成13年10月

(3) 方法 質問紙法

(4) 調査項目
各調査項目の結果と考察の冒頭に記述

3 小中学校における実態調査の結果と考察

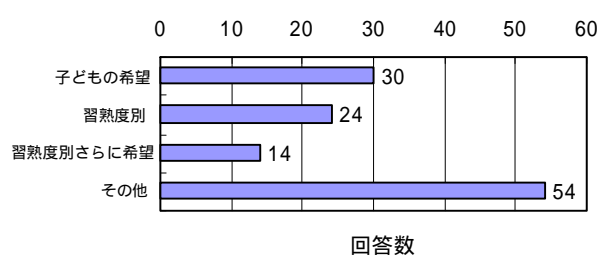
(1) 少人数学習集団による授業の現状

少人数学習集団による指導

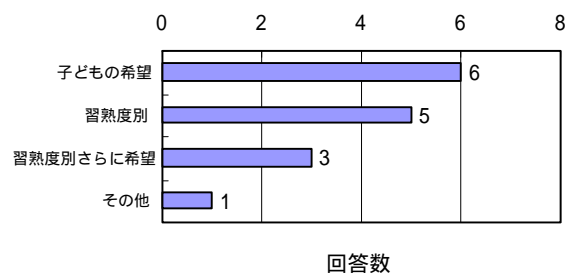
ア 学習集団の分け方

問1 コース分けの方法はどのようにしていますか。

【調査結果】



コース分けの方法(小学校)



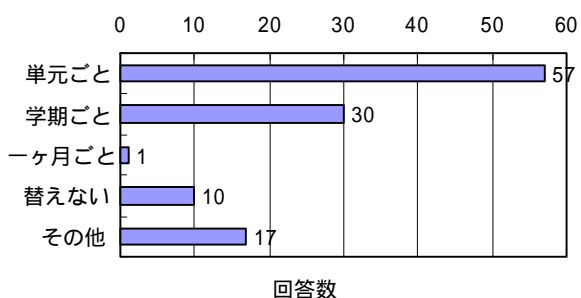
コース分けの方法(中学校)

【考 察】

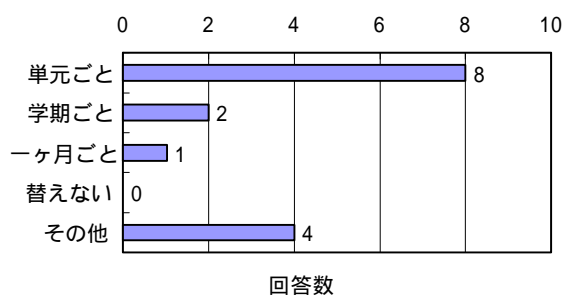
小学校では、習熟度別のコース編成を行っている学校は半数以下であるが、中学校では、半数以上の学校が、コース編成に習熟度別を取り入れている。小学校の「その他」54校の内訳は、「等質に分ける」「名簿番号で分ける」等で、コースの人数を少人数にすることを優先したためと考えられる。

問2 コースの編成替えはどのように行っていますか。

【調査結果】



コースの編成替え(小学校)



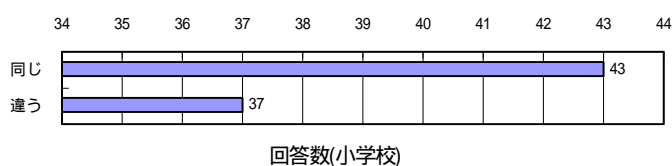
コースの編成替え(中学校)

【考 察】

「コースの編成替えを行っている」とした学校は、小学校では89%、中学校では100%と殆どの学校で行っている。また、单元ごとにコースの編成替えを行っている学校が多い。小学校の「その他」には、「児童はそのまま指導者が交代する」とした学校が3校あり、指導の工夫がうかがえる。

問3 国語と算数の2教科実施している学校では、編成の仕方は教科によって違ってきますか。(小学校)

【調査結果】



国語と算数の2教科実施の場合の編成の仕方

【考 察】

「違う」とした学校では、算数においては習熟度別、国語においては等質もしくは課題別に分けている学校がほとんどである。習熟度別のコース編成は算数の方が行いやすいと考えられる。

問4 編成するときに留意している点はどんなことですか。(複数回答)

【調査結果】 小学校

・子どもや保護者の理解を得る。	23
・各コースが等質になるように分ける。	16
・劣等感や差別意識をもたないように配慮する。	11
・メンバーが固定化しないようにする。	6
・各コースの人数調整に配慮する。	5
・子どもの希望を大切にす。	4
・個別の指導を要する児童に配慮する。	4
・男女比などの人員構成を考慮する。	4
・子どもたちが適切に選択できるよう助言する。	3
・達成度をテストや聞き取りにより調査する。	2

中学校

・生徒の希望を尊重する。	12
・人数のバランスに配慮する。	5
・事前の説明を生徒・保護者に十分に行い、習熟度別少人数授業について理解を求める。	2
・自分の力を診断テストで確かめさせ、コースを決めさせる。	2
・単元ごとにコースの変更を認める。	2
・基礎コースについては、指導しやすいように学習集団を少人数にする。	2
・生徒がコース内容を知るために、年度はじめに2週間程度の体験期間を設ける。	1

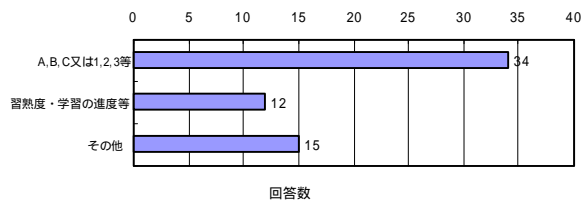
【考察】

小学校では「子どもや保護者の理解を得る」、中学校では「児童・生徒の希望を尊重する」が多く、コース編成に対し、児童・生徒及び保護者への配慮がうかがえる。また、小学校では「各コースが等質になるように分ける」「劣等感や差別意識を持たないように配慮する」が多く、習熟度別にならないようにする配慮からと思われる。

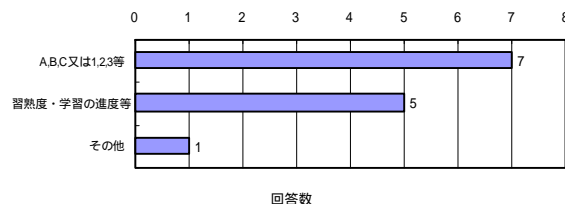
イ コース(クラス)の名称や人数

問5 コースの名称はどのようにしていますか。

【調査結果】



コースの名称について(小学校)



コースの名称について(中学校)

【考察】

小学校では、習熟度が分かるような名称は少なく、アルファベットや数字を名称にしている学校が多い。また、「その他」では、「植物名」「担当者名」などを用いている学校があり、新しい少人数の学習に対して、親しみやすくする配慮からと思われる。中学校では、ほぼ半数の学校で「基礎、充実、発展」など習熟度が分かる名称にしている。

問6 コースの人数はどのようになっていますか。

【調査結果】 小学校

・コースに応じて人数差がある。	28
・ほぼ均等にしている。	26

中学校

・コースに応じて人数差がある。	13
・ほぼ均等にしている。	2

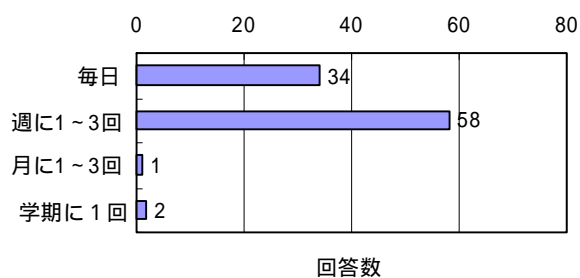
【考 察】

中学校では、「コースに応じて人数差がある」が多数を占めている。このことは、問1の調査結果(子どもの希望でコース分けをする学校が多い)と併せて考えると、生徒の希望を大切にしたいためと考えられる。内訳を見ると、コース別人数は基礎コースの人数が少なく、発展コースの人数が多くなっている学校が多かった。

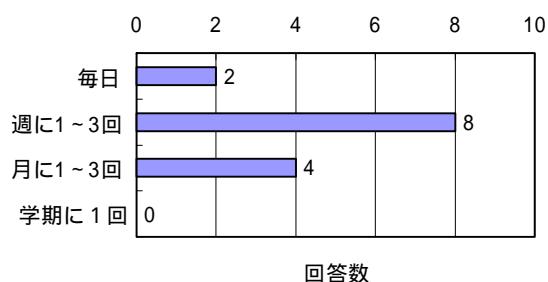
ウ 指導者どうしの打ち合わせや教材研究

問7 指導者の打ち合わせの回数と時間はどのようにしていますか。

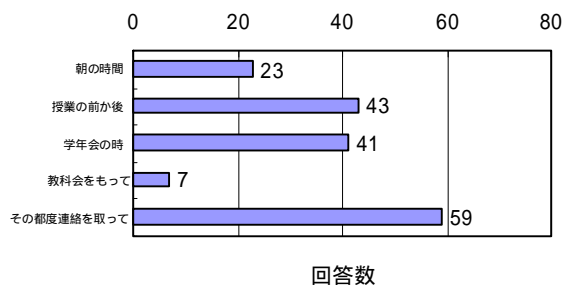
【調査結果】



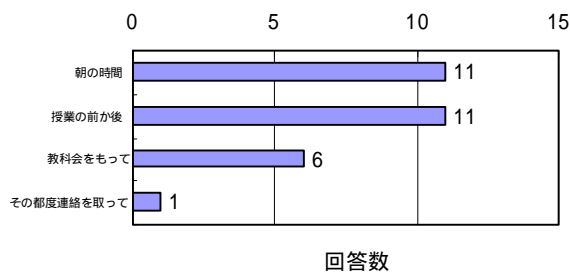
打ち合わせや教材研究の回数(小学校)



打ち合わせや教材研究の回数(中学校)



打ち合わせや教材研究の時間帯(小学校)



打ち合わせや教材研究の時間帯(中学校)

【考 察】

週に1度の学年会や教科会だけでなく、「朝の時間」「授業の前か後」の時間を使い、1週間に何回も打ち合わせの時間を取っている。このことから、少数学習集団による授業を行うには、今まで以上に打ち合わせの時間が必要になってきていることが分かる。

問8 打ち合わせは、どのような内容について行っていますか。

【調査結果】	小学校上位3項目	回答数
・学習進度や学習内容の確認調整, 週単位の予定の作成, 時間数の確認を行っている。		80
・児童理解や生徒指導にかかわることを行っている。		45
・授業で扱う教材(教具, 資料)の検討や確認, 教材の準備などといった教材研究を行っている。		19
	中学校上位3項目	回答数
・学習や指導内容について教材研究を行っている。		8
・生徒の様子(生徒指導的な内容も含む)について行っている。		4
・進度の確認調整について行っている。		3

【考 察】

小学校・中学校とも、多くの学校で「学習進度」「教材研究」「児童・生徒理解」について、打ち合わせを行っている。中学校では「教材研究」が最も多いが、小学校では「学習進度・時間数の確認等」が最も多い。このことは、小学校では行事等が多く、時間割をそのつど調整して、学習時間・進度を確認調整しているためと考えられる。

エ コース別の評価

問9 評価の観点をどのようにしていますか。

【調査結果】	小学校	回答数
・評価の観点は、どのコースも同じにしている。		5 1
・コースごとに評価の観点を決めている。		3
・2学期からコース別にしたので、評価の観点については、今後検討する。		1
	中学校	回答数
・評価の観点はどのコースも同じにしている。		6
・関心・意欲・態度、考え方、表現処理、知識・理解の4点について評価している。		6
・テスト点+態度点(コースのクラスごとに評価)で、学年単位の評価をしている。		2
・定期テストの結果をお互いに交換して、基準を作っている。		1

【考 察】

小学校・中学校とも、ほとんどの学校で全コース同一の評価観点を評価している。学習指導要領に基づいて評価基準を設定し評価するので、同一の評価観点になるのは妥当だと考えられる。

問10 家庭連絡票(通知票)にはどのような記載をしていますか。

【調査結果】	小学校	回答数
・通知票は観点到に沿って記載し、所見欄に学習の様子を記述している。		6 0
・通知票は観点到に沿って記載している。		3 0
・現時点では均等に分けて実施しているため、コース別ということでの記載はしていない。		2
・その他		2
	中学校	回答数
・5段階評定で評価し、所見欄に学習の様子を記述している。		2
・単元の終末でコース別での学習を実施しているため、通知票には、特に記載していない。		1
・演習を中心にコース別学習をしており、特にその時間の評価は通知票に記載していない。		1
・通知票への記入については、二人の教員で検討し、評価している。		1
・毎日の取り組みの様子や各単元の理解度などを評価している。		1

【考 察】

少人数学習として特別な記載をしている学校はない。小学校では「観点到に沿って記載し、所見欄に学習の様子を記述している」としている学校が多い。このことについて、回答には、「評定や所見の記載については、学年会・コース担当者と担任との打ち合わせ会等で検討して記載している」等の補足の記述が多く、通知票の記載には、コース担当者と担任が連絡を取り合っている様子がうかがえる。

オ 少人数学習集団での学習を行っての反応

問11 子どもたちからは、どのような反応がありましたか。

【調査結果】 小学校	回答数
・ 意見や質問が言いやすくなり、積極性が増した。	29
・ 分かるようになってきたので楽しい。	22
・ 丁寧に教えてもらえる。	11
・ いろいろな先生に教わって楽しい。	6
・ 考える時間が増えた。	4
・ 新鮮な気持ちで取り組んでいる。	4
・ 習熟度別の学習集団の編成は嫌だ。	2
・ 国語はもっと大勢で意見を言い合いたい。	1

中学校	回答数
・ 集中できる。	7
・ 分かりやすい。	7
・ 質問（発言）がしやすい。	6
・ 学習のペースが自分に合っていてやりやすい。	4
・ 好評であり、2年3年とも学力アップにつながっている。	1
・ クラスを分けることに抵抗がある。	1

【考 察】

多くの小学校・中学校から「分かるようになってきた」「発言しやすい」の回答が寄せられ、ほとんどの児童生徒に、少人数学習は好評だと考えられる。しかし、少数ではあるが「国語はもっと大勢で意見を言い合いたい」「クラスを分けることに抵抗がある」という回答もあるので、実施する上で更に工夫していく必要がある。

問12 先生方は、どのような反応でしたか。

【調査結果】 小学校	回答数
・ 個々の子どもに応じた細かな指導がしやすくなった。	23
・ 共に教材研究をしたり、授業の進め方や指導について相談したりできる。	6
・ 子どもたちが集中して取り組み、発言の回数が増えた。	6
・ きちんと時間が確保され、確実に学習ができる。	5
・ もっと教材研究、打ち合わせの時間が欲しい。	5
・ 隣のクラスの子と触れ合いが増え、学年の一体感が増した。	2
・ 単元によっては、TTの方がやりやすい時もある。	2
・ 小学校段階で習熟度別がいいのか迷っている。	1
・ 時間割調整が大変で、30人学級で対応して欲しい。	1
・ 国語の少人数学習のよさや指導法がよく分からない。	1

中学校	回答数
・ 個別指導がしやすい。	7
・ 生徒とコミュニケーションがとりやすくなった。	3
・ コースに合った教材を準備しやすい。	1
・ 内容をしばって授業を進めることができるが、練り上げるという点は弱くなる。	1

- ・コースにより、生徒指導上心配な子が集まり、少し指導が大変である。 1
- ・学習意欲の向上にもつながってきており、生徒の反応もよい。 1
- ・全体追究の場が少なく、教え込みの授業になりがちである。よく手は入る。 1
- ・生徒指導上の配慮が必要なことから、同一クラスを分ける方法で行っている。 1

【考 察】

小学校・中学校では、「個別指導がしやすい」が上位を占め、先生方が個に応じた指導に、手応えを感じていると考えられる。少数ではあるが、小学校では、「習熟度別がいいのか迷っている」「国語での指導法がよく分からない」、中学校では、「練り上げる点で弱くなる」「教え込みの授業になりがち」などの回答があり、今後、少人数学習集団の授業に対する研究を更に進めていく必要があると考える。

問13 保護者の方からは、どのような反応がありましたか。

- 【調査結果】 小学校 回答数
- ・わかるまで指導していただいていたありがたい。 37
 - ・能力別、習熟度別で行うことに反対である。 5
 - ・進度や内容等の違いが心配である。 1
 - ・子どもたちに力がついたという評価をどのようにするのか。 1

中学校

- 回答数
- ・好評である。 3
 - ・子どもから分かりやすくなったという声を聞き、よかったと感じている。 2
 - ・この学習方法に理解をいただき、概ねよい反応である。 2
 - ・集中して学習している生徒の様子や、向上しているテストの結果などから、好評である。 1
 - ・質問も気軽にでき、生徒もまじめに取り組んでいるようで安心だと好評である。 1
 - ・コース選択に、生徒と相談し協力的である。 1
 - ・子ども同士で刺激し合い、家庭学習も増えた。分かりやすく進むので安心である。 1
 - ・生徒自身が選択し、真剣に学習しているので、今では不安はない。 1
 - ・人数が少なくなり、目が届くと思う。 1

【考 察】

「子どもの理解度が高まった」と感じている保護者が小学校・中学校とも多いことから、少人数学習は保護者にとっても好評だと考えられる。しかし、小学校では「能力別、習熟度別で行うことに反対である」という考えもあるため、保護者に対して十分な説明を行うなど、少人数学習に対する理解を深めていく必要がある。

カ 少人数学習集団での授業について、先生方の悩み

問14 少人数学習集団での授業について、悩みがありますか。

【調査結果】

小学校	回答数	中学校	回答数
(ア) 特に悩みはない。	20	(ア) 特に悩みはない。	5
(イ) 悩みがある。	71	(イ) 悩みがある。	10
・打ち合わせ時間が不足する。	24	・進度を合わせていくことが難しい。	3

・コース編成が難しい。	14	・生徒指導上の問題のある生徒が集まるコース	
・時間割の自由がきかない。	12	の指導が難しい。	3
・国語での少人数学習の指導が難しい。	10	・評価が難しい。	2
・学級独自の時間の確保が難しい。	9	・その他	2
・コース内の理解度の差が大きい。	8		
・進度を合わせていくことが難しい。	5		
・教室，机・いすが不足する。	3		

【考 察】

少人数学習集団事業の初年度ということもあり，小学校・中学校とも3分の2以上の学校で「悩みがある」と回答している。内訳をみると，「打ち合わせ時間の不足」「コース編成の問題」等の運営上の問題や，「国語での少人数学習の指導が難しい」「理解度の差が大きい」等の指導上の問題，また，「教室，机・いすが不足する」といった施設上の問題など，多岐にわたっている。今後，他校との情報交換などにより改善策を見つけていく必要がある。

問15 時間割を作成する上で苦労した点はどのようなことですか。

【調査結果】		回答数
小学校		
・ 加配教員が非常勤なので国語・算数の時間を優先して時間割を組んだ。		55
・ 指導の先生が午前中のみのため，午前中に少人数授業ができるようにした。		44
・ 特別教室の学年への割り当てと，少人数授業加配の先生と担任の持ち時間の調整に苦労した。		40
・ 5，6年の国語，算数が重複しないようにした。		33
・ 総合的な学習の時間，音楽，家庭科の時間との調整で苦労した。		26
・ 空き教室がないために，特別教室使用と専科の先生の授業時間との関係から調整した。		18
・ 総合的な学習の時間を，午前中2時間続きでとれなくなってしまった。		6
・ 特殊学級通級者に対する配慮をした。		3
中学校		回答数
・ 数学を同一時間に設定した。		2
・ 1人の先生が，同じ習熟度のコースを持たないようにした。		1
・ 加配教員の勤務時間の関係で，水・土曜日に授業を組めないため，その都度調整している。		1
・ 1クラスに2人の教師がつくようにした。		1
・ 数学科職員共通の空き時間を作ることが難しい。		1
・ 固定時間割にして，全クラスでコース別学習ができるようにした。		1
・ 少人数用の教室が1つのため，3学年内でクラスの授業が重ならないようにした。		1
・ 来年度は，各教科の授業時数が半端となり，より困難が予想される。		1

【考 察】

少人数授業の時間と特別教室使用，総合的な学習の時間の設定を優先的に編成することにしたため，加配教員が非常勤の学校では，勤務時間の関係から，調整が難しかったようである。また，空き教室がない学校では，特別教室を使用するので時間割編成が難しかったようである。

チームティーチング加配の時との違い

問16 ティームティーチング加配の時と現在とでは，どのような違いがありますか。

【調査結果】 小学校 回答数

- ・ 授業の進度や理解度による弾力的な展開など，子どもの実態に即した授業が展開できてよい。 2
- ・ T Tの時は週数時間であったが，現在は全時間が対象となっており，進度にゆとりがない。 2
- ・ 単元や内容によって，少人数にしたり，T Tにしたりして形態を変化させるようになった。 2

中学校 回答数

- ・ T T加配のときは学級ごとの学習だったが，現在は2学級を3つに分けて学習を進めている。 1
- ・ 個別に指導できる機会が多くなったが，中間のコースに人数が多くなる傾向がある。 1
- ・ 学級内T Tで行ってきたが（1クラスに2人）これだと毎時間入ることができなかった。 1
- ・ 学力，内容に応じて分けたため，T Tよりも生徒とのコミュニケーションが図れるようになった。 1
- ・ T Tでは，習熟度別でコース分けをし，少人数の時は，名簿順で2つに分けている。 1

【考 察】

少人数学習では，T Tに比べ「子どもの理解度による弾力的な展開など，子どもの実態に即して授業が展開できる点が良い」という回答する学校がある。また，現在は全時間が少人数学習の対象になっており，「進度にゆとりがなくなっている」という回答もあった。

少人数学習集団の授業における成果

問17 少人数学習集団の授業における成果は、どのようなことがありましたか。(複数回答)

【調査結果】 小学校 回答数

- ・ 個別指導の充実により，一人一人の基礎学力が向上し，児童の学習状況を把握しやすくなった。 7 4
- ・ 学習の取り組みに対する意欲の向上が見られた。(質問・発言を含む) 6 2
- ・ わかるようになったという子どもが増え，自信を持てるようになってきた。 2 1
- ・ 子どもたちの学力差が少なくなってきた，人間関係も好転してきている。 1 1
- ・ 子どもの興味関心が高まり，算数・国語に抵抗を示す子が少なくなった。 1 0
- ・ 職員の間で，学年の児童を学年で育てる意識が高まった。共通基盤に立てる。 7
- ・ 他の学級との交流ができ，協力の姿が広がった。 6
- ・ 児童の学習評価を複数の教師がするので，より正確な評価ができるようになった。 5

中学校 回答数

- ・ 学習の取り組みに対する意欲の向上が見られた。(質問・発言を含む) 1 2
- ・ 基礎学力の向上が見られた。 6
- ・ 以前より個に応じた学習ができているように思われる。 3

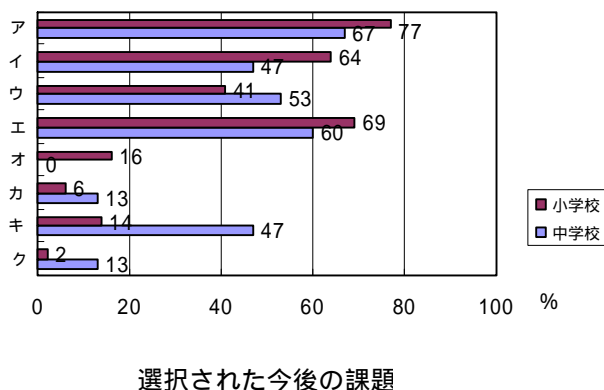
【考 察】

児童生徒の学習に取り組む姿勢が積極的になり，質問の機会が増えた。また，教師も児童生徒の学習状況の把握が細部まででき，指導が行き届いて基礎学力が向上しているとらえている学校が多い。基礎学力についての具体的な記述には，国語では漢字の読み書きの正確さや文章表現力，算数では計算力や数学的思考力の向上と定着が上げられている。

少人数学習集団の授業における個に応じた指導の課題

問18 少人数学習集団の事業における個に応じた指導のために，今後の課題としては，どのようなことがありますか。特に優先する課題を3つ選んでください。

【調査結果】



- ア 実態把握に立った毎時間の授業におけるきめ細かな指導の改善を行う。
- イ 定期的に効率のよい打ち合わせ会や評価連絡会，研究会等を行う。
- ウ 評価の規準の作成と見直しを行う。
- エ グループ編成の方法や編成替えの時期や方法の再検討を行う。
- オ 保護者の理解を進める。
- カ 校内職員の理解と協力体制を更に進める。
- キ 指導の成果を数値的に示す方法等の検討を行う。
- ク その他

【考 察】

指導の改善，定期的な打ち合わせ，評価規準の作成，グループ編成を今後の課題として上げている学校が多い。小学校では，今後，習熟度別編成を志向していく上で，保護者の理解をどのように図るかが課題になっていくだろう。また，中学校では，「指導の成果を数値的に示す方法等の検討」を課題とした学校が，約半数であった。これは，指導を評価や評定の面から見直していこうとする姿勢を表したものと考えられる。

(2) 少人数学習集団編成以外で，個に応じた指導として工夫している点

問19 少人数学習集団編成以外で，個に応じた指導として工夫していることは，どのようなことがありますか。

【調査結果】

小学校	回答数	中学校	回答数
・学習カードを活用しての自己評価・学習課題の発見・相互理解に努めている。	10	・教具の作成やパソコンの活用等をしている。	2
・パソコンの活用を進めている。	9	・提出ノートで個別指導を行っている。	2
・課題プリントを子どもに応じて何種類か準備している。	4	・適用題を選べるように数多く用意している。	1
・座席表の活用と記録の累積をしている。	3	・クラスを学習のスピード別に分けて授業を行うことがある。	1
・校内で時間割編成を工夫し，TT学習を実現している。	3	・問題を発展させながら，解決に時間のかかる生徒もそうでない生徒も共に学習ができるようにする。	1
・放課後を使つての個別指導を工夫している。	2		

【考 察】

学習カードの活用，課題別プリントの用意，パソコンの活用，放課後の指導等を工夫している。

4 終わりに

各学校が，コース編成，打ち合わせ時間の取り方，時間割編成，指導方法等を創意工夫し，少人数学習集団による授業に取り組んでいる。

今後の課題は，児童生徒や保護者の理解を得ながら学力の向上につながる効果的なコース編成や指導方法を検討していくことである。

当センターでは，これらの課題に対応する研修講座を開設したり，教育相談事業を充実させたりする計画である。当センターのこれらの諸事業を効果的に活用していただきたい。